令和５年度第３回仙台市協働まちづくり推進委員会　議事録

○日　　時：令和６年１月 30 日（火）10：00～11：30
○場　　所：仙台市市民活動サポートセンター　市民活動シアター
○出席委員：高浦康有委員長、佐々木綾子副委員長、石田祐委員、岩間友希委員、
　　小林幸司委員、佐伯惠子委員、庄子康一委員、傳野貞雄委員、春由美委員
○欠席委員：加藤隆委員、高橋由佳委員
○事務局　：市民局長、市民局次長兼市民活躍推進部長、市民協働推進課長、地域政策課長、
　　市民活動推進係長、連携推進係長、市民活動推進係職員、
　　市民活動サポートセンター長

○次第
１　開会

２　議事
（１）仙台市協働まちづくり推進プラン 2021 の時点修正（案）の報告
（２）仙台市市民活動サポートセンターに求められる機能について

３　その他

４　閉会

○会議内容

1　開会

［事務局（市民活動推進係長）］
・委員11名中、本日は9名が参加。出席が過半数を超えており、仙台市協働によるまちづくりの推進に関する条例施行規則第4条第2項の規定に基づき、会議は成立する。
・以降の進行は高浦委員長にお願いしたい。

［高浦委員長］
・議事録署名人については、出席者の中から五十音順で指名したい。今回は傳野委員にお願いしたい。
（傳野委員　了承）

2　議事
（1）仙台市協働まちづくり推進プラン2021の時点修正（案）の報告

［事務局（市民協働推進課長）］
・資料1－1、1－2、1－3、1－4、1－5に基づき報告

［石田委員］
・資料1－3の「市民活動サポートセンターにおける市民活動支援」の目標について、前回の委員会でも出た意見を踏まえ、コーディネート機能についての指標も一緒に入れても良いのではないかと思う。
・目標値の「令和7年度までに」というのは、令和8年度以後はさらに目標値が変わることを示唆しているのか。

［事務局（市民協働推進課長）］
・目標値については、当プランの計画期間が令和7年度までであることと、年度ごとに段階的に事業を進めて目標値の達成を目指すという理由により「令和7年度までに」と記載している。

［高浦委員長］
・資料1－1の、調整中である新規掲載「交通局の情報発信事業」であるが、経営状況の発信は協働まちづくりの理念に該当すると思うが、単なる運行状況の発信だけでは協働まちづくりには関わらないのではないだろうか。
・目標値についても、自治体行政に関わるページの閲覧数などであれば良いかと思うが、単にXのフォロワー数だけを目標とするのは、市の基本的な施策にある「市政に関する情報の公開の推進」の範囲を広く捉えすぎることにはならないか。あくまでも、市政に関する情報公開の推進ということを念頭に置いて、担当課と調整いただければよいと思う。

［事務局（市民協働推進課長）］
・担当課と調整を進めていきたい。

［高浦委員長］
・資料1－5について、17のゴールごとに印のカウントがあると、仙台市の協働の取り組みの強弱が分野ごとに「見える化」されると思う。単純集計で構わないので、◎の数と○の数を縦にカウントした表示があると良い。

［事務局（市民協働推進課長）］
・集計値は追記したいと思う。

[岩間委員]
・SDGsの関連について分野ごとに見たところ、印の数にばらつきがあるようだ。特に「14.海の豊かさを守ろう」については、仙台市総合計画でもチャレンジプロジェクトのひとつとして「杜と水の都プロジェクト」が挙げられている。既存の事業について印の追加ができそうなものはないか、もう一度確認したほうが良いのではないか。

[事務局（市民協働推進課長）]
・各事業について、既に印のついているゴール以外にも該当するゴールがないか再度確認したい。

[小林委員]
・「まち再生・まち育て活動支援事業」と「まちなかウォーカブル推進事業」について、成果を測るには目標を数値化するのは重要だと思うが、数字よりも中身がより重要ではないのか。

[事務局（市民局次長兼市民活躍推進部長）]
・ご指摘があったことを担当課に伝えたい。私どもも今後実績を把握する時には、取り組みの内容や特徴なども聞き出しながら進行管理していきたいと思っている。

[佐々木副委員長]
・このような指標を測るときは、どのような資源が投入されてどのような成果が出たかといった部分が大切である。その地域や事業で関わった人たちにどのような良いことや幸せが起きたのか、その方々がどれだけ豊かになったのかがわかる定性的な評価もあると良いと思う。

[高浦委員長]
・事業にまちづくり関係者の団体が関わっているのであれば、その団体数が増えてきているとの見せ方ができれば、様々な担い手がまちづくりに関わっていることがわかり、定性的な評価に寄せることができるかとも思った。担当課といろいろと議論いただけるとありがたい。

[佐伯委員]
・資料１－１の他の事業への統合「町内会相談窓口機能強化」と統合先の「町内会等住民自治組織・体力強化」について、実際今、自身が町内会で活動をしていると、コロナ禍で随分住民の考え方が変わってきてしまったように感じる。町内会には加入しても行事には参加しないといった忙しい若い世代に対して、町内会がどういうものなのかを訴える機会の必要性を感じている。町内会を新たに作り直すぐらいの気持ちでやっていかないといけないと感じている。私の加入している町内会でも、子ども会が今年度末でなくなってしまう予定であり、すごく切実な問題である。

[事務局（地域政策課長）]
・今年度は新型コロナウイルス感染症が５類に移行し、町内会活動が復活しつつある一方で、時代の変化に合わせた町内会の望ましいあり方について、いろいろなご意見をいただいている。
・コロナ禍前から担い手の確保や育成が町内会の課題という認識があり、体力強化事業のほか、町内会相談窓口機能強化事業も進めてきた。現在も、若い世代を町内会や地域コミュニティに取り組むことが重要であるという観点から、他事業も含めて様々な施策を行っている。また、若い方のライフスタイルにどのように合わせていけば町内会がうまく機能していくのかを考え、デジタル化を取り入れようと講座を行ったり、町内会がもともと持っている知見を若い方にも還元していくため、町内会の工夫を凝らした取り組み事例を発表する機会を設けたりしている。
・引き続き、町内会が地域コミュニティの中核であるということを念頭に置きながら、施策を進めてまいりたい。

［高浦委員長］
・私の住んでいる地域でも子ども会がなくなってしまったが、地域で運動会が開催され、子供から高齢者まで多世代で交流する機会が残っている。コロナ禍が明けて、そのようなイベントがまた復活していくと、繋がりが継続的に持てて町内会活動にも繋がっていく可能性もあると思う。

（２）仙台市市民活動サポートセンターに求められる機能について

［事務局（市民協働推進課長）］
・資料２－１、２－２に基づき説明

［小林委員］
・若者をどうやって巻き込み、取り込んでいくかについては、我々の環境活動の中でもとても課題になっている。我々と一緒にできることを、楽しくやっていくといった若者の層を増やしていかないと先がないと思っている。
・現在、仙台市も関わっている連続講座を企画中であるが、その企画内容についてインターンで来ている大学生に意見を求めたことがあった。大学生からは、講座すべてに出席しないと駄目なのか、オンライン等でいつでも見られるのか、講座が学生のキャリア形成に活かせるものか、との意見があった。そのような若者が参加したいと思えるようにするには、どうしたらいいのかを考えなければならない。
・年齢層が高い人たちの意見だけで企画を組み立てていくと、どうしても無理がある部分が出てきてしまう。例えば、我々としてはとても良い講座が出来たと思っても、実際は人が来ないということがありうる。担当部局の若い職員が、とても斬新な違った意見を出すのかもしれないので、そういうものを思い切って取り入れる視点がないといけないと思う。
・広い視野を持って、年齢層が高い方々の意見も若者の意見もきちんと聞き、どの意見を取り入れていくのか一度頭をフラットにして考える必要性を、自分の仕事の中でも感じている。

［事務局（市民活動サポートセンター長）］
・市民活動サポートセンター（略称：サポセン）には20代のスタッフが結構おり、自身で市民活動をしているスタッフもいるため、講座の企画などに若手スタッフの意見を取り入れている。
・さらに今年は、サポセンの若手スタッフと一緒に、市民協働推進課の事業である「仙台まちづくり若者ラボ」といった、活動をしたい若者の意見を直接聞ける場に積極的に参加した。その内容をサポセン内でも若手スタッフから共有してもらったりしている。
・また、サポセンが作成している広報紙「ぱれっと」は若者読者を意識していており、文字数を少なくして手に取った際に読み切ってもらえる情報量にするよう工夫している。

［庄子委員］
・資料２－２の「コーディネート強化」はやはり大切な部分だと感じる。
・私も地域で３年ほど活動している中で、実は身近に、地域のことを考えている団体や企業、学生が結構いるということを感じる機会がある。
・私の住む地域では、子どもたちをみんなで守っていこうという「子ども防犯」をテーマに、町内会、地区の社会福祉協議会、大学、商店街、企業も含めて約30の団体で活動しているのだが、それぞれの団体が普段どのような活動をしているのか、どういう思いで活動をしているのかを知るために、グループワークや自己紹介をしてもらうと、前向きに市民活動をしようと考えている人があふれていると感じる。
・また別の事例では、大学生から「地域防犯のために夜間のパトロールを定期的に行いたい」という相談を受けたため、地域パトロールを行う町内会の方と繋いで一緒にパトロールをした機会があった。
・町内会がどのような活動をしているのかを知らない学生でも、地域の活動を知るともっと関

わりたいと考える学生もいる。町内会活動の意義や内容を学生に伝える機会を、サポセンも含めて作ることができれば、そこに協力したいと思う学生や若い人もまだまだいるのではないかということを、活動を通して非常に感じている。

[高浦委員長]
・地域単位や地区単位で行っている取り組み事例について、サポセンが他の自治組織に横展開できるような機能を発揮できるとなお良いかと思う。

・では、最後に、次第「３．その他」について事務局からは特になしだが、皆さんから何かあるか。
(特になし)

[事務局（市民活動推進係長）]
・本日の委員会はこれにて終了とさせていただく。
—了—

〈議事録署名人〉

[委員長] 高浦康有

[署名人] 傳野貞雄